



インスピレーションになろう

2018-19年度 山形南ロータリークラブ会長方針

「ふるさとを見直し、活かそう」

山形南ロータリークラブ会報

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT2800

Rotary



RI会長：バリー・ラシン 2800地区ガバナー：上林 直樹 ガバナー補佐：伊藤 吉明

会長：金子 靖二 幹事：熊谷 昌和 会報・史料委員会 委員長：山下 宏

委員：金田 亮一 土肥 成二 遠藤 幸司 丹野 善将 佐々木啓充

RI会長メッセージ



インスピレーションになろう

2018-19年度国際ロータリー会長

バリー・ラシン 氏

113年前の創設以来、ロータリーの役割は、世界において、また会員の人生において、絶えず進化してきました。ロータリーはその初期、会員が親睦と友情を見つけ、地域社会で人びととのつながりを築く方法を提供していました。その後ほどなくして、ロータリーに奉仕が芽生え、組織の成長とともにその影響も膨らんでいきました。間もなく、ロータリー財団の支えもあって、ロータリーの奉仕は世界中の家族や地域社会の人びとの生活を変えていくようになりました。活動の成果を高めるために、他団体とのパートナーシップや奉仕の重点分野を生み出しました。各国政府、国際団体、無数の地元や地域の保健当局と協力して、世界最大の官民協同による保健の取り組み、ポリオ撲滅にも乗り出しました。ますます多くの会員が、友情だけでなく、人助けのために行動する方法を求めてロータリーにやってくるようになりました。

ロータリーは今も、そしてこれからもずっと、ポール・ハリスが思い描いた団体であり続けます。それは、この地球上のあらゆる国の人たちが手を取り合い、自分を越えた素晴らしいことを生み出せる場所です。その一方で、今日のロータリーは、類まれな不朽の価値を提供してくれます。それは、才能、そして世界を変えようという熱意をもつ人たちの世界的なネットワークの一員となれるチャンスです。私たちは、地域社会で行動する力が世界的な影響を生み出し、力を合わせればたいいていのことを実現できる能力とリソースを兼ね備えています。

全世界で、ロータリーはかつてないほど重要な存在となっており、より良い世界を築くその潜在能力は莫大です。残念なことに、ロータリーがどんな団体で、どんな活動をしているのかを十分に理解している人は多くありません。私たちのクラブ内でさえ、多くのロータリアンがロータリーについて十分に知らず、ロータリー会員であることの恩恵を十分に享受していません。

ロータリーの奉仕は、人びとの人生、そして地域社会を変えるものです。真に変化を生み出す奉仕をもっと実現するために、私たちは、ロータリーでの自分の役割、そして世界におけるロータリーの役割を、これまでとは違う角度でとらえる必要があります。公共イメージにもっと重点を置き、ソーシャルメディアを活用して会員基盤を築き、奉仕のスケールアップを助長してくれるパートナー組織に注目してもらう必要があります。より持続可能な影響をもたらす大きなプロジェクトに力を注ぎ、ロータリー年度や任期を超えた活動の研究と計画に時間を費やす必要があります。一番大切なのは、前向きな変化を生み出し、私たちが今日直面する課題に勇気と希望、そして創造性をもって正面から立ち向かう意欲を、クラブ、地域社会、そして組織全体から引き出すための「インスピレーション」となる必要があるのです。

ポール・ハリスが述べたように「ロータリーは、世界平和の縮図であり、国々が従うべきモデル」です。私にとって、ロータリーは、単なる「モデル」ではなく、インスピレーションです。ロータリーは、可能性を指し示し、そこに到達する意欲を引き出し、行動を通じて世界の「インスピレーションになる」ための道を拓いてくれるのです。

例会場／ホテルキャッスル 例会日／毎週火曜日 12:30～13:30

事務所／山形市十日町1-1-26 歌懸稲荷神社 社務所ビル2F TEL.023-632-7777 FAX.023-624-5200

山形市内 例会日案内

月曜日

山形西 山形イブニング

火曜日

山形中央

水曜日

山形

木曜日

山形北

金曜日

山形東



地区テーマ

「ロータリーの原点に戻ろう」

国際ロータリー第2800地区
2018-19年度ガバナー

上林 直樹氏

(1) 基本理念

ロータリーの原点に戻ろう (BACK TO BASICS)

私たちの人生の価値は、どれほど得たかではなく、どれほど与えたかによって判断されます。ロータリーバッジを付けた瞬間から世界の方々へ約束をした！

ロータリークラブが「世界の模範になる奉仕団体」と言われる所以はロータリーマークをつけた多様性を誇る120万の同志が、世界のロータリアンの様々な考え方を繋ぎ、様々な問題に取組み、地域で、日本で、世界でロータリー活動を必要としている人達に、よりよい環境を提供しているからだと思います。

ロータリー創始者ポール・ハリスが著した「THIS ROTARIAN AGE」では親睦を目的としたクラブ活動の間から、自然発生的に奉仕が生まれ、展開してきたものである。したがってロータリーの本質を問われれば「親睦の中から奉仕の理想を生み出す集団」と書かれています。

原点に戻り活動していきたいと思います。素晴らしいロータリアンになるはずです。

BACK TO BASICS。

(2) 基本方針

パフォーマー (表現活動者) になろう

私の好きな言葉で「磨斧作針 (まぶさくしん)」という言葉があります。

どんな難しい事でも忍耐強く努力すれば必ず成功するという意味です。「斧を磨いて針を作る」と読み、不断の努力を続けることの例えを言います。

昔、中国で唐の詩仙と言われた李白が少年の頃、学問を途中でやめて家に帰ろうとした途中、1人の老婆が鉄の斧を磨いているのを見た。何にするのかと尋ねると「針を作ろうと思っている」と答えた。李白はその根気の強さに感嘆し道を引き返して学問を全うしたという故事です。

1905年2月 米国のシカゴでポール・ハリス達により誕生したロータリークラブは、今や世界約200ヶ国35,000クラブがあり、会員数が120万人に拡大されています。

1905年、シカゴの殺伐とした時代背景の中から、心の通い合った友人たちと巡り合い、胸襟を開いて語り合うために定期的集まることができたら、どんなに心が安らぐことであろうという発想でロータリーは誕生しました。ごく普通の街の弁護士を中心に、決して高い学歴の持ち主とはいえないごく平凡な商店主や中小企業の経営者が集まって、ロータリークラブが発足しました。会員は1業種から1人=同業者がいるとお互いに利害関係が生じて、親睦が阻害されるためでした。初期数年間は会員相互で取引をする物質的相互扶助を積極的に行いました。

私が入会した当時は、ロータリークラブが1業種1名と限定されており、異業種の人達の集りのため、聞くこと、見ることが全て新鮮で、特に例会において、メンバーのスピーチに感動を受け、大変勉強になりました。

しかし、最近の例会ではメンバーのスピーチ (業界の情報等) が少なくなってきたのではないかと感じます。

個人個人の高潔な倫理観、価値観、また会社の社訓・社是などなど、素晴らしいメンバーに恵まれ、もう一度原点に戻り、例会に出席して良かったといえる例会になるよう努力しましょう。

ロータリーの例会の1時間、それは皆様の息抜きの時間かもしれません。業務の為に緊張した心も体もリラックスします。

競争者のいない世界、警戒心を必要としない時間、ここで初めて本然の自分に帰ります。これが親睦から奉仕が生まれる過程でありロータリーの本質の存するところです。

ある時、ふと思ったのです。クラブの仲間のことをよく分かっていないぞ?と。クラブの仲間をお客様に紹介する時に、その仲間の仕事ぶりをよく知ってなければ自信をもって紹介できません。ロータリーの原点に立ち返って、メンバーの職場へ移動例会を企画しもっともっと理解すべきではないだろうかと考えております。

また、地域の人達がロータリークラブの名前は知っているが、どういう活動を行っているか、ほとんど知らないと思います。

自治会、地域のお祭り、交通安全活動などに参加してみると、これらに参加している人が実はロータリークラブに入って奉仕の勉強をしていることが分かります。

メンバー1人1人が、パフォーマー (表現活動者) になり、あらゆる事に積極的に参加し、行動を起こすことが多くの方々に理解してもらい、それが延いてはロータリーのイメージ向上に繋がるものと確信しております。